



つなぐ税金、つなげる税金

大田区立大森第七中学校 三年 清住 和花

私たちが暮らしている日本にも、たくさんの種類の税金があるが、中学生である私が最も身近に感じる税金が消費税である。消費税は、モノを買ったり、サービスを受けたときに、誰でも同じ割合の税金を払い、みんなが少しずつ負担することで、社会全体を良くするために集められている税金である。それは、国や地方自治体の大切な収入となり、主に年金・医療などの社会保障に使われている。消費税は、納税者と担税者が異なる間接税に該当し、例えば、お店が納税者となり、担税者であるお客さんから消費税を預かり、その後でお店がまとめて国に納める、という仕組みになっている。

先日、学校のワイシャツに油性ペンの染みを付けてしまったので、近所の洋品店に新しいシャツを買に行った。お店のおばさんに代金を支払い、新しいシャツと一緒に釣りとレシートを受け取り家に帰った。受け取ったレシートには、ワイシャツの値段、消費税の金額の他に登録番号という数字も印刷されていた。租税教室で税金について学んだばかりであったからか、普段気にすることがなかったその数字の列が気になり、調べてみるとインボイスの登録番号であることを知った。消費税に

ついて調べを進めていくうちに、私たちがお店に預けた消費税が国に届かず、消費税の滞納が増えていることが分かった。私たちがお店に消費税を預けて、そのお店が国に納めるというシンプルな納税の仕組みであるのに、なぜ滞納が増えてしまうのか不思議に思ったが、そこには様々な理由があることも知った。その一つとして、主に小さなお店や会社にとって、一年分の消費税を正確に計算することや、新しくできたインボイス制度に対応することなどが簡単ではない、という理由が挙げられていた。

私たちが社会の一員として支払う消費税が、私たちの生活のためにどのように使われているかを知るとはとても大切なことである。と同時に、その消費税が確実に国に届くようにするには、どのようにしていけば良いかを考えることも大切だと思った。間接税の納税義務はお店にあるので、預かった消費税を国に納めなかったら、そのお店が罰を受ける。悪いことをしたら罰を受ける、というのは当然のように思えるが、私たちが預けた消費税を、私たちの代わりに国に届けるために頑張ってくれている人たちの苦勞を考えると複雑な気持ちになる。洋品店のおばさんから受け取ったレシートをもう一度見てみると、私たちの消費税が無事に国に届いているのは、おばさんが頑張ってくれているからだと感じる。この先、納税者の皆さんがより安心して納税できる環境を作っていくためには、私たち消費者も消費税の制度をしっかりと理解し、社会全体で制度を支えていく意識を持つことが必要だと思った。